

就任のご挨拶

4月1日付けにてSCOPE理事長を拝命致しました
矢代博昭でございます。

紙面にて大変恐縮ですが、SCOPE NEWSを、お読み頂いて
おります皆様に、ご挨拶を申し上げます。

SCOPEは平成6年に設立されて以来、港湾、空港の施工、維持
管理に係る技術ノウハウや内外の技術調査研究の成果を蓄積
し、それらを港湾、空港整備の現場に活用出来る様な仕組み作
りに携わって参りました。

微力ではございますが、これからは是非、SCOPEの一員として社
会インフラの整備に少しでもお役に立てますよう尽力して参りた
いと願っております。

昨年ベトナムで東日本大震災の報に接しましたが、犠牲にな
られた方々を想うと共に被害を受けられた方々へのお見舞いを、
改めて申し上げたく思います。

ベトナムで聞いたあるニュースにベトナムの方々も大変感動し、私
も心を打たれましたので、この機会に披露させていただきます。

震災後の炊き出しの現場を東北で取材していたベトナムの新聞記者が、自分の胸ポケットに入れていたバナナを、ふと落とし、
それを小さな男の子が拾ってくれました。

記者は、長い炊き出しの行列を見て、バナナを男の子にあげようとしたのですが、男の子は自分だけが貰えないと言って行列に
戻ったそうです。その顛末を記者がベトナムの新聞に載せた処、何故、子供に至るまで日本人の道德観が高いのか、とベトナム
人の中で反響を呼び、日本への支援申し入れが相次いだそうです。

私見ですが、小さな子供であっても、このような日本人が居る限り、日本の力は決して衰えることは無いと再認識致しました次第です。
翻って、日本の内外を取り巻く政治経済環境は決して楽観できるものではありません。

次に何が起こるのか、予測しにくい現在の社会情勢の中で、SCOPEも変わって行かねばならないと認識しております。

私に与えられました使命は、震災復興支援の一端を含む事業計画の推進は基より、港湾空港の一層の競争力の強化を促す国際標
準に基づく建設マネジメント技術や公共調達、契約制度の調査研究、システム開発や技術支援を効果的に行える体制の構築と認
識しております。

広瀬前理事長により、国際標準に基づく公共調達の必要性和取り組みの方向性が示されておりますが、今後、本部支部の連携
を図り、全職員が一体感を持って幅広く業務に取り組めるよう、心掛けたいと願っております。

皆様のご健勝をお祈りしますと共に、SCOPEへの変わらぬご支援を改めまして、お願いしつつ、ご挨拶を終わらせて頂きたいと思ひます。



理事長 矢代 博昭

【略歴】1976年伊藤忠商事に入社。主としてエネルギー
石油化学、インフラストラクチャー案件を担当し、
ナイジェリア、タイ、ベトナムの三か国に駐在。

CONTENTS

- 1 就任のご挨拶
- 2 平成24年度の事業計画等について
- 3 第50回評議員会、第58回理事会の開催報告
- 4 第26回公共調達のあり方を考える講演会を開催
- 5 第3回空港土木施設技術に関する講演会を東京及び大阪で開催
- 6 平成24年度海上工事施工管理技術者及び空港施工管理技術者認定試験について
- 7 技術講習会及び施工技術報告会の開催について
- 8 SCOPE 現場訪問
- 9 SCOPE からのお知らせ

平成 24 年度の事業計画等について

(専務理事 松浦壽彦)

東日本大震災からすでに1年が経過し、被災地では復旧・復興事業が本格的に実施されています。当センターでは、昨年3月に設置した「東北関東大震災復興支援室」により、当初は災害査定資料作成の補助、その後復旧工事発注の補助により震災支援業務を実施させていただきました。昨年度は、東北地整、関東地整、茨城県、宮城県、北海道浜中町において、この震災支援を実施したところです。今後は、復旧工事の発注や施工管理の補助による震災支援が中心になるといいます。当センターは公益法人としての使命を認識し、23年度に引き続き、全面的に協力・支援していく所存です。

さて、さる3月21日、当センターの評議員会及び理事会が開催され、平成24年度事業計画及び収支予算が同意・議決されました。今年度はこの「計画」のもとに事業を展開していくこととなりますので、その概要を紹介いたします。

事業計画の作成に当たっては、当センターの目的、寄付行為に規定する事業をもとに、最近のセンターを取り巻く事業環境の変化を踏まえ、センターの持つ経営資源を最大限に活かせる重点テーマを定め、その重点テーマに従って事業を絞り込みました。

センターを取り巻く主な事業環境の変化

- (1)公共工事の品質確保のための「総合評価落札方式」の定着
 - (2)「技術基準」の性能規程化等に伴う基準・共通仕様書等の国際標準化
 - (3)FIDIC約款の試行やインフラ輸出等建設契約の国際化
 - (4)維持管理計画規定の明確化等LCMの重視
 - (5)24年度より技術支援業務が「公共サービス改革法」による「市場化テスト」の対象
 - (6)新たな公益法人制度による移行期間は残り20ヶ月
 - (7)国に加え宮城県・茨城県等からの技術支援要請
- 以上7つを取り上げました。

センターの持つ主な経営資源

- (1)港湾・空港分野での発注・施工で多様な経験・ノウハウを持つ多数の技術職員
 - (2)博士・技術士等多様な資格を持つ技術職員
 - (3)海外の調達や国際業務の経験・ノウハウを持つ技術職員
 - (4)災害時即応力のある多数の職員と全国組織、
 - (5)公共調達・リスクマネジメント等に関する多数の海外文献・図書
 - (6)「公共調達総合支援ツール」等独自の分析ツール
 - (7)電子コアシステム等総合的な情報処理システム
 - (8)作業船在港情報や施工計画等の豊富なデータベースや各種マニュアル
- 以上8つを選びました。

事業計画での重点テーマ

これらの事業環境の変化とスコープの持つ経営資源をもとに、

- (1)公共工事の品質確保
 - (2)事業実施の効率化
 - (3)ライフサイクルマネジメント
 - (4)基準・人材の国際化
 - (5)早期災害復旧・復興
- 以上5つの重点テーマを設定しました。

24年度事業計画は、「寄付行為」に定める6つの事業区分と復旧・復興支援の事業毎に、これら重点テーマに沿った事業を選定しました。詳しくは、当センターホームページの「平成24年度事業計画」をご覧ください。

これら事業を実施するため、49億円の予算を計画しています。今年度も、引き続きご支援をお願いいたします。

「第50回評議員会」「第58回理事会」の開催報告

(総務課長 木崎 朋弘)

去る3月21日(水)、第50回評議員会及び第58回理事会が尚友会館6階の当センター会議室で開催されました。

午前11時に始まった評議員会では、まずはじめに当センターの西川会長から挨拶があり、その後、来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の福田氏のご挨拶の後、議長選出が行われ、東京都市大学学長の中村評議員が議長に選出されました。



▲第50回評議員会の様子

計2議案が審議され、全て承認されましたが、その主な内容は次のとおりです。

- 第一号議案の「平成24年度事業計画及び収支予算に関する件」では、まず、事業計画について松浦専務理事より説明を行いました。来年度の重点事項等の説明を行い、平成23年度に引き続き、東日本大震災の復旧・復興事業に全面的に協力・支援していく旨の説明を行いました。次に、収支予算について説明を行いました。平成24年度の予算額として、収入が49億円であることの説明を行いました。

この第一号議案については、原案に対して異議はなく、評議員会として同意することが決定されました。

- 第二号議案の「理事・監事の選任に関する件」では、平成24年4月1日以降の理事・監事等の選任を行い、原案に対して承認されました。今回選任された新理事・監事は、当センターが次期任期中(平成26年3月31日)に一般財団法人化への移行手続きを行う予定としており、移行の日で理事・監事全員が辞任することについても了解いただきました。

次に、14時から理事会を開催し、来賓としてご出席いただいた国土交通省航空局安全部空港安全・保安対策課長の干山様のご挨拶の後、当センターの西川会長を議長として議事が進められました。

次の計5議案が審議され、全て承認されました。

- 第一号議案「平成24年度事業計画及び収支予算に関する件」
- 第二号議案「評議員の選出に関する件」
(任期2年、一般財団法人化の移行手続きの日での全員辞任)
- 第三号議案「会長、理事長、専務理事及び常務理事の互選に関する件」
(西川会長、矢代理事長、松浦専務理事、中村常務理事、平林常務理事)
- 第四号議案「諸規程の改正に関する件」(職員就業規則他6規程)
- 第五号議案「新規賛助会員入会に関する件」(法人会員1名、個人会員1名の入会)

なお、平成24年度事業計画及び収支予算についての詳細は、当センターホームページをご覧ください。

なお、評議員会、理事会それぞれにおいて、当センターを取り巻く最近の諸情勢として、「一般財団法人化に向けての対応」及び「東日本大震災復興支援への対応」についてご報告しました。

最後に、今回の評議員会及び理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。



▲第58回理事会の様子



▲島崎敏一教授

第26回公共調達のあり方を考える講演会を開催

(建設マネジメント研究所 上席研究員 入部 忠道)

第26回公共調達のあり方を考える講演会が2月28日(火)に開催され、日本大学理工学部土木工学科の島崎敏一教授より「入札行動のモデル化」という演題でご講演いただきました。

講演のポイントは以下のとおりです。

モデルとは

- ・ 「モデル」というのは現実をいくつかの側面から解釈した抽象概念である。
- ・ 「モデル」の信頼性を調べる方法を確立することが非常に重要である。
- ・ 「モデル」というのは反証可能性を持つてなければいけない。
- ・ なるべく単純な、少ない仮定からできるのがいいモデルである。

公共事業の総合評価方式における企業の入札行動決定モデル

- ・ 企業の技術力を表す技術関数を定義し、評価値を最大にする提案値達成費用を式で表した。
- ・ 入札者は、高度の技術開発をしたほうが有利ではあるが、必ず高度の技術開発をしたほうが良いのかというと必ずしもそうではない。

閾値モデルによる談合の成立可能性の分析

- ・ 談合の成立可能性は、人数にはあまり関係しない。
- ・ コアになる人がいれば談合は成立しやすくなる。

ゲーム理論による談合の分析

- ・ 談合は「鹿狩りのジレンマ」に相当する。
- ・ 談合した時の利得が大きければ大きいほど談合が起きやすくなる。

落札率への入札者数と低入札価格調査基準価格の影響

- ・ 入札価格は、技術要因・各社同一の確率密度関数を持っていると仮定する。
- ・ 入札者数が2倍になると大体、落札率は1.5%くらい低下する。
- ・ 低入札価格調査基準価格が設定されていると、その価格での入札が増加する。

今後の課題

- ・ モデルは、人間や企業は完全に合理的な行動をするという仮定である。
- ・ 人間と言うのは、必ずしも完全に合理的な行動をするわけではない。
- ・ 行動経済学の視点を導入したモデルの見直しが必要である。



▲講演会の様子

「第3回 空港土木施設技術に関する講演会」を東京及び大阪で開催

～テーマ「空港舗装補修及び空港舗装材料技術の最新動向について」～

(調査部上席調査役 富沢 今朝一)

当センターでは、社会資本としての重要な交通基盤施設である「空港」における土木施設に関する最新技術の動向等について、有識者の方々に講師として招いて、空港施設に携わる技術者の技術力向上の一助として頂くために、公益事業の一環として講演会を開催しています。

毎回、テーマを設定して開催しており、今回は「空港舗装補修及び空港舗装材料技術の最新動向」をテーマに取り上げて開催いたしました。(※大阪会場は「空港舗装補修」を主体とした講演会となりました。)

空港土木施設に関する性能規定化に改訂された「空港土木施設設計関係規定類」は平成20年7月に整備されましたが、未整備であった空港舗装補修に係る要領が平成23年4月に「空港舗装補修要領及び設計例」として国土交通省航空局及び国土技術政策総合研究所の監修のもとに当センターで発行しました。これを機に「空港舗装補修」を取り上げるとともに舗装補修に関

連する「空港舗装材料技術の最新動向」をテーマとし、要領等の利用者である国、自治体、空港会社、民間企業等に周知することを目的に「第3回空港土木施設技術に関する講習会」を東京会場(2月10日)と大阪会場(2月23日)で開催いたしました。

本講演会では、国土交通省国土技術政策総合研究所(国総研)及び独立行政法人港湾空港研究所(港空研)から講師をお招きして講演を頂きました。

国総研坪川主任研究官からは、新たに制定された空港舗装補修要領に関する位置付け、主な改訂点(補修設計法、調査・評価方法、補修材料、補修方法)について、具体的に説明を頂きました。

また、舗装補修要領の説明に引き続き、当センター担当者より「舗装補修の設計例」の説明を行い、聴衆者に理解をより深めて頂くよう努めました。

港空研前川主任研究官からは、空港の安全を支える空

港舗装材料技術の最新動向として、港空研における近年の主な研究内容のうち、以下について具体的な説明をして頂きました。

- ①わだち掘れ対策としての遮熱性舗装の適用性検証
- ②自然劣化対策としての表面処理工法の適用性検証
- ③PCエプロン舗装の裏込めグラウト材の耐久性向上策の検討



▲東京会場写真（参加者：104名）

最後に当センター八谷理事より「海外の舗装に関する最近の話題」と題して、空港に限定せず道路の舗装も含めた情報を報告いたしました。

空港舗装関係については、多くの方が関心を持たれており東京会場・大阪会場とも盛況のうちに滞りなく開催することが出来ました。



▲大阪会場写真（参加者：66名）

平成 24 年度 海上工事施工管理技術者及び 空港施工管理技術者認定試験について

（認定登録部 主任研究員 島田 伊浩）

海上・空港工事施工管理技術者認定試験は以下に示す内容で実施の予定です。

1. 海上工事施工管理技術者認定試験

(1)申込み受付期間

1次試験：平成24年6月1日～ 6月29日

(2)1次試験（筆記試験）

試験日：平成24年8月19日（日）

合格発表日：平成24年9月21日（金）

(3)2次試験（経験論文、面接試験）

面接試験日：平成24年11月～ 12月のうち1日

合格発表日：平成25年1月下旬

(4)試験地

1次試験、2次試験

東京23区内、大阪市内、福岡市内、札幌市内

(5)受験料

1次試験：10,500円 2次試験：10,500円

2. 空港工事施工管理技術者認定試験

(1)申込み受付期間

平成24年6月1日～ 6月29日

(2)1次試験（筆記試験）

試験日：平成24年8月19日（日）

合格発表日：平成24年9月21日（金）

(3)試験地

東京23区内、大阪市内、福岡市内、札幌市内

(4)受験料：15,750円

申込み方法等については、当センターホームページより確認して下さい。

海上工事施工管理技術者は、複数取得者が増えています。
海上工事認定試験 複数登録者数
1種類：1,671人 2種類：229人 3種類：33人
（平成24年3月30日現在）

技術講習会及び施工技術報告会の開催について

（認定登録部 主任研究員 島田 伊浩）

技術講習会

(1)趣旨

海上工事施工管理技術者の育成となるの知識の習得、資質の向上を図る事を目的に技術講演会を開催します。

(2)場所、月日

5月12日：東京（150名）ベルサール三田

5月19日：福岡（150名）電気ビル

5月26日：新潟（100名）トラック総合会館

6月 2日：大阪（100名）TKP大阪淀屋橋

6月 9日：札幌（50名）北農健保会館

(3)講習会時間：9:30～12:30

(4)講習会の内容

新しい技術的な話題についての講演、工事の施工について講演、工事の積算について等

施工技術報告会

(1)趣旨

海上工事の技術の伝承として、施工技術報告会を開催します。施工現場において発生した課題と解決策について、海上工事施工管理技術者の方に報告をして頂きます。また、発表できなかった報告については、「施工技術報告集」としてとりまとめ、関係機関等に配付を予定します。

(2) 場所、月日：技術講演会と同じ場所、月日

(3) 報告会時間：14:00～17:00

(4) 報告会の内容

海上工事の施工における技術的課題とその解決策についての事例報告等

申込み方法等については、当ホームページより確認して下さい。

Site Visit

SCOPE 現場訪問

—広島市街地を高潮・浸水から守るために—

広島港直轄海岸高潮対策事業



お話を聞いた人
広島支部
調査役：佐藤司さん
テクニカルエキスパート：前田史男さん
テクニカルエキスパート：西村隆夫さん

People who create port and airport.

広島市街地を襲った台風18号

広島市の市街地は、広島湾に注ぐ太田川により形成された広島デルタに発達した都市です。地形的に高潮による浸水被害を受けやすく、大地震による液状化の被害も心配されています。

特に広島港臨海部は平成に入ってから3年、11年、そして記憶に新しい16年の台風18号により高潮が発生し、大きな被害を受けました。今後30年以内に60～70%以上の確率で発生すると予測されている東南海・南海地震など大規模地震が発生した場合、液状化により既存施設に著しい変形が生じ、地震後の津波や高潮による被害の発生も危惧されています。これらの対策のため、平成17年より海岸防護機能の確保を目的とした事業が実施されています。

事業区間は、中央西地区の観音、江波、吉島工区と中央東地区の船越、矢野工区に分けられており、平成22年度までに観音工区護岸と吉島工区西側堤防改良が実施され、平成23年度からはさらに吉島工区東側護岸及び江波地区堤防の改良が進められています。



吉島工区堤防

DATA

広島港直轄海岸高潮対策事業

- 整備内容：防護延長 約12,600m、防護人口 約32,000人、防護面積 582ha
中央西地区 護岸(改良)6,875m、堤防(改良)1,846m、陸間1基
中央東地区 護岸(改良)3,310m、堤防(改良)540m
- 事業期間：平成17年度～平成27年度
- 総事業費：113億円



People who create port and airport.

地元住民への配慮を徹底し 騒音・振動対策を重視した工事

耐震改良工法としては、観音工区では既設護岸背後に自立鋼管矢板式の護岸を新設。吉島工区の堤防では、既設堤防の法先に鋼矢板または鋼管矢板を打ち込んで補強する工法をとっています。

今回の工事では、背後に住宅地を抱える沿岸部での工事も行われるため、騒音・振動への対策が重要視されました。

「地元住民の方のための説明会などを開いて工事へのご理解をいただくとともに、防音・騒音対策として、防音シートや防音パネルを使い、機械も低騒音型のものを使用しています。こうした防音の効果がきちんとできているか、音量を計測するのも我々SCOPEの役割です」
(テクニカルエキスパート前田史男さん)

また、観光客など多くの市民が訪れるマリンスポット「ポートパーク広島」の護岸整備工事では、美しい景観を損なわないよう配慮された整備が行われています。



観音地区 鉄筋組み立て（上部工）

People who create port and airport.

設計図との違いを細かくチェック

広島港海岸中央西地区（吉島）護岸改良の工区では、護岸自体が古く、設計図だけではわからない部分や、設計図と現場と違っている部分もいくつかあったそうです。

「元々、貯木場だったのでいまだに木がたくさん沈んでいたりしました。設計はされていたけれども現状と違って、設計変更をしなければならないこともありました。そうした相違点の確認は確実に行うようになっています」（テクニカルエキスパート西村隆夫さん）

また日々の業務におけるチェックリストや報告書には、広島支部ならではの工夫もみられます。

「施工計画書をいただいた時点で、施工状況確認補助業務における重要ポイントをあげてチェックリストを作成し、順次確認するようにしています。担当の技術者が検査補助として見なければならぬところはたくさんあるので、その中で特に重要なポイントを事前にリストアップしているのです。また、今年から業務実施報告書（日報）にも写真や図表などを入れてよりわかりやすいようにしています」（テクニカルエキスパート前田史男さん）

平成16年の台風18号は広島沿岸部に深い爪痕を残しました。観音地区の沿岸部の工場や飛行場が冠水し、操業停止に追い込まれた工場もあり、広島経済にもその影響がおよびました。そうした経緯から、今回の整備事業では一番最初に観音地区の護岸工事が行われています。

工事が完成すれば高潮・地震など自然災害に強い街として市民の安全を守るだけでなく、広島産業・経済もより発展していくことが期待できそうです。

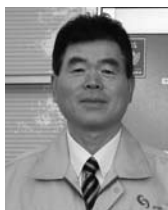


▲左：テクニカルエキスパートの前田さん、右：同じく西村さん

People who create port and airport.

Voice

現場からの声



【管理技術者 佐藤 司】

海岸整備工事の現場は、港湾工事に比べると地域住民の生活の場に近いため、騒音、振動、交通安全などに特に気を注ぐ工事です。施工状況確認業務に携わるテクニカルエキスパートは品質・出来形の確認はもとより、現場環境のチェックにも注意しながら業務を行っています。現場にいと住民の方から工事について質問されることもあります。昨年の東日本大震災以降、特に地震、



防音パネル

津波、高潮対策の事業について関心が高いように思われます。我々も品質の高い海岸施設整備の一端を担っている意識を持ち、そうした期待に応えられるよう努めていきたいと思います。

【テクニカルエキスパート 前田史男さん】

以前は民間のコンサルタント会社で橋の設計などをしていたので、実際の現場を見ることが少なかったのですが、逆に今は毎日現場に行き、実際にものができるのがあっていくところを最初から最後まで見るができる。それが一番やりがいがあります。前は設計図を書いてしまったらそれでおしまい、次に見に行くのは工事が完成してからでしたから。どのような状況で仕上がっていくかわかるのは、やはり達成感がありますね。

People who create port and airport.

Voice

一般利用者からの声

【ボートパーク広島のハーバーマスター 松本志郎さん】

ボートパークでは護岸の嵩上げ工事が進められています。ボートパーク自体は水際で営業をしているので、護岸を上げて頂くと景観が悪くなってしまうという問題もあります。それで、数年前から吉島の地域について検討委員会をつくり話し合ってきました。壁に覆われた中の施設になってしまっは、あまりきれいに見えないですね。だからその辺はしっかりと意見を言わせていただいて、デザインなどについても配慮していただきました。この工事がうちの事業にとって100%プラスになるかというところというわけにもいきませんが、地域住民にとっては防災という大切な事業ですのでお互いに協力していければいいと思います。」



▲ボートパーク広島のハーバーマスター松本さん

修復・復旧を繰り返してきた
世界遺産・厳島神社

広島県が誇る世界遺産・厳島神社はこれまで台風によって幾度となく被害を受けています。平成16年の台風18号では戦後最大級の被害にあいましたが、国の文化財であるために特別な防災対策を施すことができません。たとえば、取り外し可能な床板を外したり、土のうを積むなどの防災対策はできますが、床板の高さを上げたり、防風壁を建設するなど、建物に手を加えることは不可能なのです。

800年の歴史を守る厳島神社では、自然災害の脅威を受け入れた上で、被災したあとにどのように修復し、1日も早く復旧させるかということに重点が置かれているのです。



写真提供：広島県

取材・文：(株) ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

SCOPEの平成24年5月～7月の主な行事予定

- SCOPE 講演会 (舗装の構造解析と診断技術) 5月8日(火)16:00～18:00 尚友会館 8F 講師 東京電気大学 松井教授
- 第27回 公共調達のあり方を考える講演会 6月4日(月)16:00～18:00 尚友会館 8F (株) オリエンタルコンサルタンツ 廣谷会長 (コンサルタントの海外業務とFIDIC)

平成24年度「港湾工事積算基準講習会」及び「港湾CALS講習会」開催のお知らせ

申し込み方法等の詳細は、当センターのホームページでご案内しています。

○「平成24年度港湾工事積算講習会」

港湾管理者及び民間企業の積算業務担当者等に、港湾工事の積算基準に対するご理解を深めていただくとともに、積算基準の適正な運用が図られることを目的として以下の概要で開催いたします。

1. プログラム

- ・地方整備局管内の動向について
- ・新技術・新工法積算基準の改訂及び積算基準Q&Aについて
- ・港湾における積算基準及び損料算定基準の改訂内容等について

2. 開催日程等について

開催日	開催場所	会場	定員(人)
5月9日(水)	東京(午前)	TFTビル	200名
5月10日(木)	仙台	ハーネル仙台	100名
5月11日(金)	神戸(午前)	神戸国際会館	100名
5月14日(月)	広島	鯉城会館	100名
5月15日(火)	北海道(午前)	北農健保会館	100名
5月16日(水)	名古屋	愛知県産業労働センター(ウイックあいち)	100名
5月17日(木)	高松	ホテルパールガーデン	100名
5月18日(金)	福岡(午前)	天神ビル	200名
5月21日(月)	新潟	新潟県建設会館	100名
5月22日(火)	沖縄(午前)	健康文化村カルチャーリゾートフェストーネ	100名

※東京、神戸、北海道、福岡、沖縄は午前中の開催になります。これらの5会場では、同日午後にCALS講習会を予定しています。

3. 参加費用 5,000円/人 (受講料3,000円 テキスト代2,000円)

○「平成24年度港湾CALS講習会」

各局のCALS担当の方からの電子納品運用状況について解説いただくと共に、港湾空港関係の電子納品運用ガイドラインの留意事項、同ガイドラインに基づく事前協議実施時のポイント、手戻りにならない工事帳票管理システムの利用上のポイント、工事帳票管理システム利用を前提とした電子納品方法に関する講習会を以下の概要で開催いたします。

1. プログラム(13:30～17:00)

- ・各局における電子納品の運用状況について
- ・港湾空港関係の電子納品運用ガイドラインについて
- ・事前協議、工事帳票管理システムの利用と電子納品について
- ・電子納品データ作成時の留意点について

2. 開催日程等について

開催日	開催場所	定員(人)
5月9日(水)	東京	100名
5月11日(金)	神戸	100名
5月15日(火)	札幌	100名
5月18日(金)	福岡	150名
5月22日(火)	那覇	100名

※会場は「港湾工事積算講習会」と同じです。

3. 参加費用 3,000円/人 (資料代を含む)

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター

U R L : <http://www.scoopenet.or.jp> E-mail : info@scoopenet.or.jp

本 部 : 〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-3-1 尚友会館3階

代 表 T E L : 03-3503-2081 F A X : 03-5512-7515